

安心して
学べる
集団づくり

家庭学習
との
つながり

Hirakata 授業スタンダード

子どもが主体の学びへ

学習指導要領
の理解

教材研究
指導スキル
の向上

ICTの効果的活用 自己選択・自己決定・自己調整 合理的配慮 基礎的環境整備

目標設定

質の高い「目標設定」から学びに向かう

驚きや不思議さ、必要感や不都合感のある、思考を促す目標を効果的に示します。
子どもが解決に向けて見通しをもち、学びに向かいます。

先生の役割は
ファシリテーター

見方・考え方を育む
発問の工夫

逆向き設計による
子どもにつけたい力の
明確化

指導と評価を一体化させる
評価規準・評価基準の設定

学習活動の充実を図る
単元計画

一人一人のよさを伸ばす
アセスメント

学びを子どもに
委ねる

個別最適な学び

自ら学びを調整する

学びの主体は子どもにあります。「指導の個別化」「学習の個性化」の充実を図り、子どもの個別最適な学びを実現します。

学習形態

個・ペア・グループ
全体等

学習方法

紙・ICT等

協働的な学び

対話から気づきを深める

捉え方や考えの違いから再確認や新たな発見をし、自分の考えを再構築することで、子どもの協働的な学びを実現します。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還し、一体的な充実を図ることが大切です。

振り返り

学習活動をまとめ、振り返る

学習活動を振り返り、一人一人が学習状況を確認します。
個別の気づきや新たな課題を、タブレット端末やノート等に根拠とともに書きます。

授業で大切にしたい



5つのCの視点

Challenge

チャレンジ・挑戦

学校生活の中で、課題を解決したり、目的を達成したりするために、困難な問題や未経験のこと等に積極的に取り組みます。また、自分自身で新たな課題を発見します。

Communication

コミュニケーション・意思伝達

相手の立場を意識しながら、自分の考えを相手にわかりやすく、効果的に伝えます。また、相手の意見や考えを正しく理解するために聴きます。

Collaboration

コラボレーション・協働

課題を解決したり目的を達成したりするために、自分と異なる考え方を持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取り組みます。

Creativity

クリエイティビティ・創造

課題や目的を解決するための柔軟なアイデアを表現します。また、アイデアを相手と共有することで、より深まりのあるアイデアを創り出します。

Critical thinking

クリティカルシンキング・思考判断

物事を多面的な視点でとらえながら、調べた内容や相手の意見等の情報を正しく判断するために、その理由や事実に矛盾がないかどうかについて、自ら考え、分析し、判断します。

